

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
専門学校YICリハビリテーション大学校	平成15年3月27日	中村 彰治	〒759-0208 山口県宇部市西宇部南4丁目11番1号 (電話) 0836-45-1000			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人YIC学院	平成9年1月28日	井本 浩二	〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8111			
目 的	教育基本法、学校教育法、理学療法士及び作業療法士法に基づき、医療分野に関する知識・技術を教授するとともに、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなスペシャリストの養成					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療分野	医療専門課程	理学療法学科	4年制(昼)	3420単位時間 (又は162単位)	—	平成22年文部科学大臣告示 第三十五号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1740単位時間 (又は116単位)	210単位時間 (又は7単位)	0単位時間 (又は0単位)	1470単位時間 (又は39単位)	0単位時間 (又は1単位)	
【教育課程総単位時間(3990時間)】＝必修科目(3570時間)＋必修選択科目420(時間) 【全課程の修了に必要な総授業時間数(4020時間)】＝必修科目(3840時間)＋選択した科目(180時間) 必修科目 3840時間 必修選択科目 480時間(内、180時間を選択) ① 実験生物学30時間 or 実験心理学30時間 ② スポーツ理学療法コース120時間(スポーツ理学療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動生理学) or 生活環境コース120時間(地域住環境論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) or 理学療法科学コース120時間(研究法Ⅱ、研究法演習、計測法入門) ③ セミナーⅠ30時間 or セミナーⅢ30時間						
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	130人	6人	57人	63人		
学期制度	■前期：4月1日～9月4週まで ■後期：9月5週～翌年3月31日まで			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 「学則」第4章第9条により ・授業時数の2/3以上(実習は4/5)の出席 ・学期末・学年末に単位修得試験を行い、合格者に対して単位認定 ・成績評価は100点満点とし、優(80点以上)、良(79～70点)、可(69～60点)及び不可(60点未満)で表し、可以上を合格とする	

長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：8月11日～8月20日 ■冬季：12月25日～ 翌年1月7日 ■学年末：3月31日	卒業・進級条件	(科目履修の認定) ・各学年において履修すべき授業時数の3分の2（ただし、実習においては5分の4）に満たない者については、当該科目の認定を行わない ・講義科目は、学期末及び学年末における修得認定試験等を行い、合格者に対して当該科目の認定を行う ・演習及び実習科目は、演習時及び実習時の履修状況等を評価し、当該科目の認定を行う (学習の評価) ・試験、履修状況等を基にして総合的にを行い、優・良・可・不可をもって表し、可以上を合格とする (卒業) ・校長は、前条の学習評価に基づいて、課程修了の認定を行う ・第4条に定める修業年限以上在学し、課程修了を認められた者は、職員会議を経て校長が卒業を認定する ・校長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する
生徒指導	■クラス担任制（有・無） ■長期欠席者への指導等の対応 (出席状況不良者への対応) ・担任は原則として1週間ごとに担当学年の出席状況を確認する。 ・担任は科目の欠課数が3コマに達した時、学生と面談を行い、その結果を学科責任者及び学科会議に報告する。必要に応じて学生指導及び保護者連絡を行う。 ・担任・学科責任者は科目の欠課数が講義・演習科目において6コマ、実習科目において4コマに達した時、学生面談及び保護者連絡を行う。 (長期欠席者への対応) ・上記の対応に加え、欠席が長期に渡る者については、電話連絡を密にし、必要に応じて学生及び保護者を召喚し、面談を行う。 ・学生及び保護者への対応を行った時は、その内容を学生個人記録に記録する。	課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動（有・無）
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院・介護保険施設等 ■就職率^{*1} 95 % ■卒業者に占める就職者の割合^{*2} 84 % ■その他（任意） (平成27年度卒業者に関する平成28年3月17日時点の情報)	主な資格・検定	理学療法士

中途退学の現状	■中途退学者 12名 ■中退率 8.5% 平成28年4月1日在学者 141名（平成27年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者 129名（平成28年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 1、2年次の学業不振 3、4年次の実習成績不良 ■中退防止のための取組 ・1・2年の年初にQU（楽しい学校生活を送るためのアンケート）実施 ・クラス担任やゼミ担任による定期的な面談 ・多くの相談窓口を設置 ・臨床心理士による相談日を週1回程度設ける。 ・学習支援クラスを設ける（指導者は高校教員）（週1回90分） ・状況に応じ、多くの補習を提供する ・学び合う環境づくりとしてゼミ（小グループ学習）を活用 ・年2回定期的に保護者会を開催（6月、11月） ・状況に応じて保護者への電話連絡、個別面談を行う。
ホームページ	URL: http://www.yic.ac.jp/rh/

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

- ・日々進歩する業界の知識・技術に対応するため、実際に臨床業務に携わっている教育課程編成委員の視点を取り入れ、実践的な教育課程を編成する。
- ・日本理学療法士協会による「理学療法教育ガイドライン・モデルカリキュラム」を参考に編成する。
- ・専門科目を中心に、企業等で現に働いている理学療法士を講師として登用する。
- ・実践教育の場である臨床実習を重要科目と位置付け、指定規則 18 単位に対し本校では 22 単位を行っている。
- ・業界の変化に柔軟に対応するため「セミナーⅡ（1 単位）」は講義内容を限定せず、その時に応じて裁量できる科目としている。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成 29 年 3 月 31 日現在

名 前	所 属
白川 剛	医療法人社団泉仁会 宇部第一病院 在宅リハビリテーションセンター
吉村 静馬	山口県理学療法士会 会員、学校法人山口コア学院山口コ・メディカル学院 副校長
綿谷 昌明	山口県理学療法士会 理事
森脇 省三	医療法人太白会 シーサイト病院 リハビリテーション科
中村 彰治	専門学校Y I C リハビリテーション大学校 校長
山本 悟	専門学校Y I C リハビリテーション大学校 副校長
藤井 昭宏	専門学校Y I C リハビリテーション大学校 理学療法学科 学科長
鹿毛 治子	専門学校Y I C リハビリテーション大学校 教務課長

（開催日時）

第1回 平成 28 年 6 月 8 日 16 : 45～17 : 30

第2回 平成 29 年 1 月 30 日 16 : 45～18 : 00

2. 主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）

- ・山口県内の病院・施設を中心に、3 年以上の臨床経験をもつ理学療法士が指導に当たれる施設を選定している。
- ・学生の興味分野や就職先希望（進路）も踏まえ、実習指導者との連携がとれる施設を選定している。
- ・各施設の理学療法部門において職場の業務スケジュールに従って実習する。指導者の監督の下、各学年の習得レベルに応じて見学・実習を行い理学療法の一連の過程を理解させる。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習（体験実習）	2 年次前期までに修得した知識・技術と 1 年次に実施した「臨床実習（基礎実習）」の成果に基づいて、医療人を志すにふさわしい資質を形成し、疾患に対する知識をさらに深める。	リハビリテーションサービスを行っている山口県内の施設で、3 年以上の臨床経験をもつ理学療法士が指導に当たれる施設を選定している。
臨床実習（評価実習）	各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身に付けるとともに各評価の意義を学ぶ。クリニカルクラークシップの「見学・模倣・実施」の段階を踏みながら診療参加を経験する。	リハビリテーションサービスを行っている主に山口県内（近隣県含む）の施設で、3 年以上の臨床経験をもつ理学療法士が指導に当たれる施設を選定している。
臨床実習（総合実習）	各疾患における評価、治療目標の設定、治療計画の立案、さらには治療実施を通して理学療法の基本的知識・技能の習得をはかり、理学療法の一連の過程を総合的に理解する。	リハビリテーションサービスを行っている施設で、3 年以上の臨床経験をもつ理学療法士が指導に当たれる山口県内外の施設。学生の興味分野や進

		路も踏まえ、臨床実習指導者との十分な連携が取れる施設を選定している。																
3. 教員の研修等 (教員の研修等の基本方針) ・ Y I C グループ教職員研修規程に基づき計画的に研修を実施している。 ・ 教員業務に携わるにあたり、厚生労働省および医療研修推進財団共催による「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等教員講習会」の受講を推奨する。ただし長期講習のため交替で派遣。 ・ 理学療法専門領域の知識・技術向上のため、関連学術団体が主催する各種学会・研修会・勉強会への参加、大学院通修を支援。 ・ 日々進歩する業界の知識・技術に精通するため、半日／週程度の臨床勤務を兼務することを許可する。																		
4. 学校関係者評価 (学校関係者評価委員会の全委員の名簿) 平成 29 年 3 月 31 日現在 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 前</th> <th>所 属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高井 弥生</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>金井 和明</td> <td>遊心会(YICリハビリテーション大学校同窓会) 会長</td> </tr> <tr> <td>信久 美佐子</td> <td>介護老人保健施設寿光園 リハビリテーションセンター長</td> </tr> <tr> <td>白川 剛</td> <td>宇部第一病院 在宅リハビリテーションセンター 理学療法士</td> </tr> <tr> <td>宇野 善郎</td> <td>山口県立宇部中央高等学校 教頭</td> </tr> <tr> <td>宮内 順子</td> <td>介護老人保健施設ぺあれんと リハビリテーションセンター長</td> </tr> <tr> <td>綿谷 昌明</td> <td>宇部第一病院 リハビリテーション科技師長</td> </tr> </tbody> </table> (学校関係者評価結果の公表方法) URL: http://www.yic.ac.jp/rh/disclosure/			名 前	所 属	高井 弥生	保護者	金井 和明	遊心会(YICリハビリテーション大学校同窓会) 会長	信久 美佐子	介護老人保健施設寿光園 リハビリテーションセンター長	白川 剛	宇部第一病院 在宅リハビリテーションセンター 理学療法士	宇野 善郎	山口県立宇部中央高等学校 教頭	宮内 順子	介護老人保健施設ぺあれんと リハビリテーションセンター長	綿谷 昌明	宇部第一病院 リハビリテーション科技師長
名 前	所 属																	
高井 弥生	保護者																	
金井 和明	遊心会(YICリハビリテーション大学校同窓会) 会長																	
信久 美佐子	介護老人保健施設寿光園 リハビリテーションセンター長																	
白川 剛	宇部第一病院 在宅リハビリテーションセンター 理学療法士																	
宇野 善郎	山口県立宇部中央高等学校 教頭																	
宮内 順子	介護老人保健施設ぺあれんと リハビリテーションセンター長																	
綿谷 昌明	宇部第一病院 リハビリテーション科技師長																	
5. 情報提供 (情報提供の方法) URL: http://www.yic.ac.jp/rh/																		

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			基礎科学	「ひと」の運動、その思考は自然の摂理にしたがって行われる。自然のしくみがどうなっているのか、物理学、化学の基礎事項を通じて学習する。	1 後	30	2	○		
○			心理学	人間の心と行動の基礎を理解する。自己理解、他者理解を深め、医療チームという社会集団の中で活かせるようになることを目指す。	1 前	30	2	○		
○			情報処理	パソコンおよびWindowsの基本知識・操作方法を習得し、応用技術としての文書処理(Word)、計算処理(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)を習得する。	1 前	30	2	○		
○			ソーシャルスキル論	日常のコミュニケーションをチェックし、場面に応じたコミュニケーションができるようになる。相手の意見や考えを正確に受け取り、相互理解ができるようになる。	1 前	30	2	○		
○			社会福祉学	社会福祉の枠組みを理解する。現代社会における福祉問題、その現状と課題を理解する。社会福祉と医療の連携を知る。	2 後	15	1	○		
○			英語 I	英語の聞き取り能力や表現能力を養い、国際語(英語)による総合的なコミュニケーション能力を高める。	1 前	30	2	○		
○			英語 II	英語による総合的なコミュニケーション能力を高める。1、Native speakerの表現を理解できるようにする。2、医療の場面での簡単な英会話を学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			医療倫理	医療倫理の基本的な視点、概念、倫理課題について学習する。医療者と病者・その家族の関係のあり方、そこに見いだされる倫理的課題について検討する。	1 後	30	2	○		
○			解剖学	人体の構造と機能を理解する	1 前	120	8	○		

○			解剖学実習	医療の対象であるヒトを理解するため、人体構造と機能を学習する。器官、器官系の観察、評価・治療の指標となる骨、筋を正確に触知できるようになる。	1 後	60	2			○
○			運動学	生体力学の基礎を理解し、その応用として、姿勢・歩行について学ぶ。解剖学・生理学を基礎として関節運動に関わる身体の構造や機能を学ぶ。	1 後 2 前	15 60	1 4	○		
○			運動学実習	ひとの行動を運動学的に分析できるようにするために、機能解剖と運動そして機能を実技で学習する。	2 後	30	1			○
○			生理学	生体の機能とそのメカニズムについて学習する。生理学的反応や神経系の働き、骨格筋の構造、収縮メカニズムなどを理解する。	1 通	120	8	○		
○			生理学実習	ヒトを用いた生理学実習を行い、得られた情報から人体の機能を評価できるようになる。	1 後	60	2			○
○			人間発達学	発達心理学の視点から運動、認知、社会性の発達を学ぶ。幼児期までの各発達の段階が理解する。臨床場面で多くみられる各疾患の発達の特徴を知る。	2 前	15	1	○		
○			病理学概論	全身各臓器に共通する基本的な病理学的変化とその成立機序を学ぶ。臓器別に病変の原因、頻度、好発部位、経過、転帰などについて理解する。	2 前	15	1	○		
○			運動器障害学	各種整形外科疾患の病態について学び、治療法の概要について学ぶ	2 前	30	2	○		
○			内部障害学	正しく安全な理学・作業療法を行うために、内科の主な疾患の病態、症候、さらに検査、診断、治療などに関して学び、理学療法・作業療法を行う上で必要な基礎知識を身に着ける。	2 前	30	2	○		
○			発達障害学	正常発達において乳児期にみられる原始反射と各種の姿勢反射について学習し、併せて、臨床場面で多くみられる疾患の理解正常発達との違いを学習し、各疾患の特徴と異常発達について学ぶ。	2 後	15	1	○		
○			神経障害学	神経内科学について基礎的事項を学ぶ。中枢神経と末梢神経の疾患に対し内科的に治療する臨床医学の一部門である。代表的疾患の診断と治療、理学療法・作業療法との関連について理解する	2 前	30	2	○		
○			精神医学	作業療法士・理学療法士にとって重要な精神医学的知識についての基本的な知識を習得する。	2 前	30	2	○		

○			臨床心理学	こころの健康を援助するための臨床心理学の基礎的な考え方と実践方法、また疾患や障害の特性を学び、理学療法、作業療法に役立てる。	2 後	30	2	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの概念、ICF の概念、関連職種とチーム医療、リハビリテーションの流れ、地域保健と福祉などについて基本的な概念を習得する。	1 前	15	1	○		
○			リハビリテーション医学	代表疾患について障害像を把握し、リハビリテーションの流れについて学ぶ。また、主要な対象疾患に関して作業療法士・理学療法士として必要かつ基本的な知識を習得する。	2 前	15	1	○		
○			理学療法概論	学療法士に求められる資質や適性・基本的態度を理解する。近年の医療情勢や理学療法の位置づけを理解する。理学療法の基礎的理論、法律、対象に関する理解、管理・運営等を学ぶ。	1 通	60	4	○		
○			臨床運動学	基本動作・歩行動作が遂行可能となるメカニズムや、その条件などを力学的観点から習得する。主な疾患・障害の基本動作分析・歩行動作分析とその記述を習得する。	3 通	30	2	○		
○			リハビリテーション基礎理論	画像や臨床検査値等の見方や解釈について学ぶ。各検査を実施する目的と異常値と関連する病態を理解する。	3 前	30	2	○		
○			理学療法評価法	理学療法における評価の基本的視点と流れを学習した上で、患者情報の収集、各種検査・測定技術を習得する。	1 後 2 前	60 60	4 4	○		
○			理学療法評価法実習	疾患別の理学療法評価を理解する。具体的な事例を通して理学療法評価の流れを理解する。	2 通 3 前	60 30	2 1			○
○			日常生活活動	日常生活活動の概念を認識し、必要な知識と評価の手法、実際の訓練方法や自助具および福祉機器の基礎知識、使用方法などを習得する。	1 後 2 後	30 30	2 2	○		
○			日常生活活動実習	より実践的な日常生活活動への理学療法アプローチを学習する。	2 前 3 前	30 30	1 1			○
○			義肢装具学	切断、義手、義足、上肢装具、体幹装具、下肢装具など補装具の理解を深め、補装具の取り扱いや装着・操作方法を習得する。	2 通	60	4	○		
○			義肢装具学実習	実際の義肢や装具を用いながら基本事項理解し、模擬症例の装具療法を検討・討議する。切断者の基本的なリハビリテーション実技を習得する。	3 前	30	1			○

○			物理療法	物理療法に必要な基礎知識と、物理エネルギーが生体に及ぼす効果を理解する。物理療法の適応と禁忌を正しく理解し、また安全に機器を扱え、施行できる技術を学ぶ。	2 通	60	4	○		
○			物理療法実習	物理療法の効果・メカニズム・対象となる病態について学習する。 病態別の物理療法プログラム立案を学ぶ。	3 前	30	1			○
○			運動療法概論	運動療法を実施するために医療的根拠に基づいた適切な方法を学ぶ。 運動療法を学んだうえで疾患別・障害別の特徴と方法を学ぶ	1 後 2 前	30 30	2 2	○		
○			運動療法	運動の生体に及ぼす影響を理解した上で、個別的運動療法の治療効果とリスクについて理解する。疾患別・障害別の運動療法の特徴について理解する。	2 後	60	4	○		
○			骨関節障害理学療法学	代表的な骨関節疾患の病態、評価および治療について習得する。	3 通	60	4	○		
○			神経障害理学療法学	各種神経障害に関する一般的な診断・評価・治療法を学習する。ロボットリハビリテーションについて学習する。 症例検討を実施する。	3 通	60	4	○		
○			内部障害理学療法学	呼吸器機能の構造・評価方法と、病態別のリハビリテーションプログラムを学習する。	3 通	60	4	○		
○			スポーツ障害理学療法学	障がい者がスポーツにおける理学療法士の役割を学習する。スポーツ傷害について、部位別・競技別にその特徴を習得する。	3 前	30	2	○		
○			骨関節障害理学療法学実習	運動器疾患に対する基礎的知識、治療的介入の組み立て方について実践的に学ぶ。 ID ストレッチング、PNF 等の手技について学ぶ。	3 通	60	2			○
○			神経障害理学療法学実習	脳卒中、脊髄損傷、小児神経疾患に関する診断・評価・治療技術を習得する。	3 通	60	2			○
○			内部障害理学療法学実習	代表的な内部疾患に対する評価および治療プログラムの立案を学習する。	3 通	60	2			○
○			スポーツ障害理学療法学実習	スポーツ障害の特性について理解し、スポーツ障害の予防、救急処置、およびコンディショニング（テーピングを含む）を実施する。	3 後	30	1			○

○			地域リハビリテーション論	地域リハビリテーションの概要と、その領域における作業療法士・理学療法士の役割や関わり方について学ぶ	2 後	30	2	○		
○			生活環境論	住環境整備のために必要な基礎知識および基本技術を学ぶ。障害モデルごとの住環境整備のポイントを学習する。住環境整備に関わる制度・社会背景を学ぶ	2 後	30	2	○		
○			地域理学療法学	地域理学療法に必要な課題分析の方法サービスやプログラムの立案を学ぶ。 介護保険領域や介護予防分野での理学療法の意義、目的、内容を学ぶ。	3 通	60	4	○		
○			卒業研究Ⅰ	研究の必要性を理解し、EBM に基づく研究手法を学ぶ。論文の読み方、書き方について学ぶ。	3 通	60	4	○		
○			卒業研究Ⅱ	理学療法関連領域の研究調査を実践し、調査結果をまとめ、発表を行う。	3 通	90	3		○	
○			臨床実習	臨床現場において理学療法の一連の過程を総合的に理解し、臨床的技能の習得をはかる。各学年で定められた到達目標に従い実習を行う。	2 前 3 後 4 通	45 135 720			○	
○			世界の理学療法セミナー	海外から講師を招聘し、リハビリテーション領域の知識・技術について学ぶ。連携校との交流を通し、世界の理学療法の動向について学ぶ。	3 前	15	1	○		
○			臨床実習セミナーⅠ	2 年次臨床実習前後の準備や報告会。および振り返りを通じて、具体的な理学療法プログラムを検討する。	2 通	30	1		○	
○			臨床実習セミナーⅡ	2 年次臨床実習前後の準備や報告会。 リスクマネジメント（一次救命処置、医療事故対策、喀痰吸引技術）	3 後	30	1		○	
○			セミナーⅥ （国試対策）	4 年間で学習した知識を網羅的に整理し、国家試験に対応できる能力を身につける。	4 後	60	2	○		
合計					5 4 科目		3 4 2 0 単位時間（1 6 2 単位）			